

### 1. 基本情報、生活歴

- 20代女性、軽度知的障害(IQ70、精神年齢13歳程度)、療育手帳あり、障害基礎年金受給。
- 本人が幼い頃に両親は離婚、5歳のときに母が再婚し、義父と実母との間に弟が生まれた。
- 小学校高学年位から学校や家庭内で問題を起こし荒れ始めた。学校が本人から、義父から性的虐待を受けていたことを聞き出して児童相談所が一時保護。その後、義父と実母は離婚した。
- 離婚後、本人は母親のところに戻り、6歳年下の弟と3人で生活していた。本人は母親を恨み、関係はよくなかった。
- 一時保護中に、療育手帳を取得。しかし本人も母親も療育手帳の意味を理解できていない。
- 普通高校に進学するが、すぐに中退。コンビニ、レンタルビデオ店、倉庫会社等で働くが人間関係でトラブルを起こし、転職を繰り返している。就労意欲は高いが、飽きっぽい。いちばん長く続いた仕事は個人経営のパン屋の販売で半年。その職場も本人を気にしてくれていた同僚の年配女性が退職したことをきっかけに、無断欠勤して退職となった。

### 2. 自立相談支援機関につながった経緯

- 多くの機関に相談に行ったが、相談員の態度に腹を立てたり、面接の約束を守らなかつたりして関係が途絶え、問題の解決には至っていない。一時期関わりのあった障害者地域生活支援センターの支援で障害基礎年金を受給するようになった。その後、支援センターの他利用者にお金の無心をする、つきまといをする等迷惑行為を繰り返し、支援センターには「出入り禁止」になった。
- 弟と喧嘩をした時にいつも以上に荒れて包丁を持ち出し、弟に味方した母親に家を追い出された。住むところもお金もなく友人の家に数日泊めてもらっていたが、友人の家族とトラブルを起こしてそこにも居られなくなった。本人の子ども時代に家庭に関わっていた市役所職員とぼったり会い、行くところがないことを話したところ、紹介されて自立相談支援機関につながった。

### 3. 自立相談支援機関の関わりの経過

- 紹介した市役所職員から事前に電話連絡あり、本人が来所。「今日の夜から寝るところがない」と訴え。当初、攻撃的な口調であったが、話しているうちに落ち着いて笑顔も見られるようになる。金曜午後の対応であったため、連携団体のシェルターにつないで月曜日の再面談を約束する。
- 月曜朝早く、本人が来所。日曜夜にシェルターの他利用者と喧嘩をして飛び出したと話す。前後してシェルター職員からも報告の電話が入る。喧嘩のきっかけは利用規則のささいな誤解で、相手側は「本人が突然キレて、何を言っても怒鳴られるばかりだった」と話している。
- その日の面談で数件のカードローン(金額不明)、携帯料金滞納、ストーカー加害の訴訟トラブルなどが未解決であることがわかった。本人には生活保護申請、法テラスを活用した弁護士へのつなぎ、債務整理、障害福祉サービスの利用などを提案するが、本人は拒否。「給料が稼げれば大丈夫。働きたいから、住み込み仕事を探してほしい」と訴える。

→ この女性への自立相談支援機関としての関わり方について、具体的に検討してください。